

式辞（庄原キャンパス 2012）

卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。ご家族と関係者の皆様方、お祝い申し上げます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙のなか、本学の式典にわざわざご光臨賜り感謝いたしております。また、本学関係者ととともに、いつも変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

<卒業生・修了生の皆さま、お座りください。>

（冒頭からここまで三キャンパス共通）

卒業生の皆さまは、庄原で、生命科学、環境科学、あるいは、大学院で生命システム科学を学ばれ、学なって本日ご卒業、あるいは修了なさいます。これは本当におめでたいことでもあります。

おめでたいのは、第1に、皆様は、今日の社会で大変重要な、学部では、生命科学、環境科学を修め、大学院では、生命システム科学の、それぞれ学士の学位、修士の学位、博士の学位を見事に取得されたからです。（ここから***印まで三キャンパスほぼ同じ内容です）しかも、第2に、本学の学位は、日本全国でみても大変価値のある学位だからです。なぜ価値が高いかといえば、本学の研究力は高く、その高い研究力をもって、いい教育がなされているからです。日本の大学の研究力をみる場合、よい指標とされるのは、研究者が応募した研究計画を、文部科学省が各分野の専門家に依頼して選定し、研究費を授与する科学研究費補助金（略称で科研費）の採択件数ですが、中四国九州沖縄の全部で25ある公立大学のなかで、本学はこの件数は4年連続第一位です。国立大学の研究者数は本学の数倍以上あることが多く、国立大学とは単純に科研採択件数を比較できませんし、また、国立大学にはさまざまな種類の研究者がおられ、科研費応募資格のある研究者の数が外部からは正確に特定できませんので、仮に、各大学の年間の経常費で研費採択件数を割って比較しますと、本学は1億円当たり1.37件で、中四国九州沖縄の全部で22の国立大学のうち、平成21年度の年間経常費が同年9月時点で公表されている13大学と比較しますと本学は相当な上位でした。国立大学と公立大学の研究にはしばしば性格の違いがありますから、この数字だけで判断するわけにはいかないものの、本学の研究力は高いといえると思います。***

このとき少し註釈が必要です。といいますのは、科研費の採択件数は大学全体では多いのですが、庄原の生命環境学部の件数は、本学のなかでは多いとはいえません。しかし、在籍教員数で科研費採択件数を割った採択教員比率で見ますと22%となりますから、これは全国的にみるとやはり高いのです。それだけではありません。受託研究や共同研究、研究奨励寄付金等の外部資金の獲得件数と金額をみますと、本学全部で11学科のなかで、生命科学科、環境科学は他の9学科と比べて、それこそ群をぬいて高いのです。また、国立大学並の大規模公立大学を別にすれば、そもそも、これらの3種類の外部資金のすべてのカテゴリーをそろえて獲得できている大学は稀ですから、庄原の研究力はやはり高いと確言できます。

(ここから###印まで三キャンパスほぼ同じ内容です) この研究力の高い大学で皆様は教育を受けられたのです。しかも、近年では多くの大学で卒業論文なしに卒業認定していますが、本学では、全学部全学生が卒論を書いて卒業します。卒論では、教員の指導の下、科学研究の正しい方法・手続きにもとづいて、課題を学生がみつけ、文献渉猟し、論証か実証をし、創造的に結論を導き、文章にまとめ、吟味し、公開の場で発表しますから、本学の学生は本当に大学らしい教育をうけて卒業します。卒業論文発表会には私も出席することが多く、卒業論文集も見ますが、学会でほとんどそのまま通用するほど研究論文として優れたものがあり、驚くほどです。

このような大学で、上のような教育をうけて、ご卒業になるのです。皆様、本当におめでとうございます。また、幼いころから本日の卒業生を大事にお育ていただいたご家族や関係者の皆様、学生諸氏は、本学で、高等教育をうけて外観以上に能力と人柄が大きく成長してご卒業になるのです。重ねてここで、ここからお祝い申し上げます。###

ところで、ご卒業の皆様は、この庄原・三次という広島県の県北の地で、大学生活を送られました。昔からそれぞれの風土は、人々のつくりあげる文化・経済に大きな影響を与えます。この県北は、日本やアジア、そして世界に誇りうる大人物を育みました。その風土で育った皆さまは、生命環境科学という、現在から将来において大変重要な学問を身につけられました。大いに活躍をしていただきたいと思います。

県北出身の大人物は実は大変多いのですが、ここで取り上げたいのは、第一に、皆さまは何度もお聞きになり、よくご存じだと思いますが、ノーベル文学賞作家のロマン・罗兰氏から激賞された世界的文学者「出家とその弟子」の倉田百三氏です。同氏は庄原生まれの庄原育ちで、現在、庄原グランドホテルの横に碑が建っています。第二は、三次市布野の中村憲吉氏です。同氏は、短歌アララギ派の重鎮として活躍されましたから、現代の日本人の美意識や心情のあり方に大きな影響を与えたといえます。このお二人は、旧制三次中学、現在の三次高校出身です。

ほかにも、県北出身の偉大な方は多いのですが、お米にかかわる2人の大偉人をあげましょう。一人は、昔の川根村、現在は安芸高田市の生まれで、やはり旧制三次中学出身の高橋浩之氏(1908.3.2~1962.1.23)です。高橋氏は、人気の高いお米「こしひかり」の開発者です。その影響力の大きさは説明を必要としないでしょう。

もう一人は磯永吉(1886.11.23~1972.1.21)氏です。同氏は三次市吉舎の旧制日彰館中学(現在の日彰館高校)の出身で、台湾で台北帝国大学教授となり、稲の品種改良に取り組みました。大変な難問を解決し、台湾の気候にあい、美味しくて優れた品質の蓬莱米の開発に成功しました。台湾はそれまではいい米がとれず、輸入に頼っていましたが、この米のお蔭で輸出ができるようになり、しかも、あの偉大な政治家・農業経済学者李登輝氏言葉を借りますと「台湾は年に米が二回とれる二期作で、この米は6月にも収穫できた。日本では6月は米の端境期で米価が最も高い。蓬莱米は日本で大いに売れた。台湾はこの米の販売とサトウキビの販売で農家が大きなお金を稼ぎ、それを農村組合に預金した。そのお金をつかって戦前の台湾の工業化が行われた。この経済発展モデルは戦後の1965年ごろまで続き、台湾の奇跡ともいわれる経済発展をもたらした。」といっています。その経済発展モデルを可能にしたのが、福山市新馬場生まれの日彰館出身の磯永吉氏なのです。

それほど大きな働きをなさった、磯永吉氏は日本の敗戦後も請われて台湾に残り数々の貢献をなさいましたが、1957年に帰国されました。台湾政府は、この功績をたたえ、生涯年20俵の蓬莱米を送ることを約束したといっています。

1972年に磯氏は亡くなられましたが、この2012年3月10日、いまから2週間ほど前、台湾大学には磯氏の胸像が設置されたといっています。

もう一度申し上げますが、今あげました方々だけでなく、人形でも、絵画でも、将棋でも、文学でも、和太鼓でも、県北からは偉大な方々が数多く出ましたが、そうした偉人が、遊んだ美しい山や川に、皆さまも親しみ、この地の人々と交流して、学生生活を送られました。思い出深い、山河草原に、空に風だと思えます。

この風土は、今後も、生命環境科学の専門を学んだ皆さまのご活躍の糧となるはずです。お疲れになれば、羽をやすめに一時帰ってこられてもよく、草原や湖や、溪流や山を思い出されると、きっとほっとなさり、元気を回復なさるでしょう。そして、この風土も、県立広島大学の庄原キャンパスも、皆さまのご活躍を見守ってくれるでしょう。大きな活躍をなさると確信しています。どうか高く高く飛翔してください。

本日はおめでとうございます。

平成24年3月22日

県立広島大学 学長 赤岡 功